

あいち病害虫情報 最新情報

令和2年2月17日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

平年より気温が高いため、病害虫の発生に注意しましょう！

気温の高い状況が続いています

今冬の気温は高く、記録的な暖冬となっています。令和元年12月の名古屋の平均気温は平年より1.74℃、令和2年1月は平年より3.05℃高くなりました。また、降水量も平年よりやや多く推移しました。2月に入って第2半旬は平年並に気温が低くなりましたが、第3半旬はかなり気温が高く、第3半旬から第4半旬にかけてまとまった雨が降りました。名古屋地方気象台1月13日発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、期間の前半はかなり高くなる見込みです。

気温が高いため、病害虫の越冬量が多くなったり、感染好適条件が前進化することにより、発生が例年より早まることが予想されます。露地では病害の初発が例年に比べ早くなり、害虫の活動がより活発になります。また、果樹では萌芽や開花が早まるので、春季防除のタイミングを逃さないようにしましょう。

イネのスクミリンゴガイ

ここ数年、各地でスクミリンゴガイの被害が拡大していることが報告されています。スクミリンゴガイは寒さに弱く、冬季に死亡することもあります。本年は暖冬の影響で越冬する個体が多いと予想されます。昨年、発生が多かった水田では、代かき前の石灰窒素処理や入水後に活動を始めた個体を捕獲するなどし、貝の発生が多く移植苗に被害が及ぶと判断した時には、スクミノンやスクミンベイト3などで防除しましょう。

コムギの病害

12月から1月にかけて暖かい日が続いたため、コムギ赤さび病・うどんこ病の発生に十分注意が必要です。

コムギ赤さび病は、12～20℃で葉面に水分があると、感染が可能であることが知られています。2月13日の降雨は、日平均気温も12℃以上あったため、赤さび病の感染に好適な条件となりました。2月に感染好適日が記録された状況は、多発した2015、2016年と非常に似ています。

本病を効果的に防除するためには、茎立後～止葉抽出期に1回目の薬剤散布、開花期に赤かび病防除も兼ねた2回目の散布を実施すると効果的です。各圃場の生育段階に合わせて防除を実施しましょう。

うどんこ病は、2019年産において過去10年で最も多かったため、伝染源量も多くなっていると考えられます。また、暖冬の年に発生量が多くなる傾向にあります。多発してからの防除では効果が劣るため、赤さび病防除時期も踏まえながら、早めに防除を実施しましょう。

キャベツ・タマネギなど露地野菜の病害

気温が高いため、病気の発生が例年より早くなる可能性があります。好適な温度と湿度・降雨が重なると多発の原因となります。降雨によって病気が蔓延しないよう、予防的な防除に努め、伝染源となる発病株は抜き取り処分しましょう。

キャベツの菌核病は、子のう盤の形成に好適な温度(15～20℃)の時期に大雨があったり降雨が続くと発生が多くなります。菌核は乾燥条件下では畑土壌中で数年間生存し、伝染源となるため、発病株は菌核を形成しないうちに抜き取りましょう。

タマネギのべと病は、秋から初冬にかけて感染した株が、2～3月を中心に越年罹病株として発病します。越年罹病株では分生胞子が作られ、そこから急速に発生が拡大するので、見つけ次第、できるだけ早く抜き取り処分しましょう。なお、分生胞子による二次感染は10～20℃で起こります。温暖多雨な年は感染・発病を繰り返し多発するため、今後の気象に注意しながら、予防散布に努めましょう。

タマネギの白色疫病は、気温15℃前後で多雨の場合に発生が多くなるため、今後の気象に注意が必要です。

キャベツのコナガ

本年は暖冬の影響でコナガの成育が早くなり、発生量が多くなると予想されます。コナガは薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統の薬剤を連用しないよう注意しましょう。収穫終了後の残渣は発生源となるので、速やかにすき込みましょう。

キュウリ・ナス・トマトなど施設野菜の病害

灰色かび病など、多湿のときに発生しやすい病気に注意しましょう。気温が高くと、暖房機の稼働時間が短くなり、施設内が乾きにくくなります。発病前の予防散布をするなどして防除しましょう。

灰色かび病の被害果や被害葉は速やかに施設外に持ち出し、開花後のしぼんだ花弁を摘み取りましょう。詳細については、1月31日発表の「灰色かび病情報第1号」を参考にしてください。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」(アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/investigation.html>)を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820